

「近代皇室を彩る技と美」 第2期

皇居三の丸尚蔵館(皇居東御苑内) 24.01.04~03.03

本展は、23年11月に開催された「皇室のみやび—受け継ぐ美—」の第2期として開催されるもので、御即位や大婚25年の銀婚式などの皇室の御慶事を契機として制作された**“超絶技巧と規格外のスケールの美術”**が見物である。

尚蔵館の収蔵作品には、明治時代以降に宮中において室内装飾として使用された「美術工芸品類」が含まれているが、なかでも1889(明治22)年「大日本帝国憲法発布式」が行われた場所でもある「明治宮殿」を飾った作品は、当時の著名な作家が最高の技術を凝らしたものである。展示では、それらの作品とともに、明治・大正・昭和三代の天皇皇后のゆかりある品を紹介している。



横山大観 《日出処日本(ひいづるところにほん)》 1940年

縦2メートル半弱 横4メートル半という特大の画面である。

川合玉堂 《昭和のはじまりを寿ぐ饗宴を彩った屏風》(左隻) 1928年



荒木寛畝・野口小蘋《旭日双鶴(きょくじつそうかく)松竹梅図》 1894年

野口小蘋 《大正度 悠紀地方風俗歌屏風》 1915年

女性画家「野口」が天皇即位に際して制作した、縦2.30センチ、横5.24センチの規格外の大きな屏風が2つ並ぶ作品には圧倒される。

註：何れの作品も作品保護のため展示期間に制限あり。